

- 4月17日午前10時00分に開口2から格納容器底部へアクセスできると判断し、午前10時52分に開口2底部にて燃料デブリ把持を行いました。その後、午前11時38分にテレスコ式装置が燃料デブリを把持した状態で作業開始前の位置に戻っています。（燃料デブリ把持作業の完了）
- 今後、ガイドパイプの引き抜き作業を実施し、テレスコ式装置をエンクロージャ内へ戻します。その後、燃料デブリの線量を測定する予定です。



開口2上部の状況



開口2底部で燃料デブリを把持した状態



燃料デブリ把持作業完了時の状態

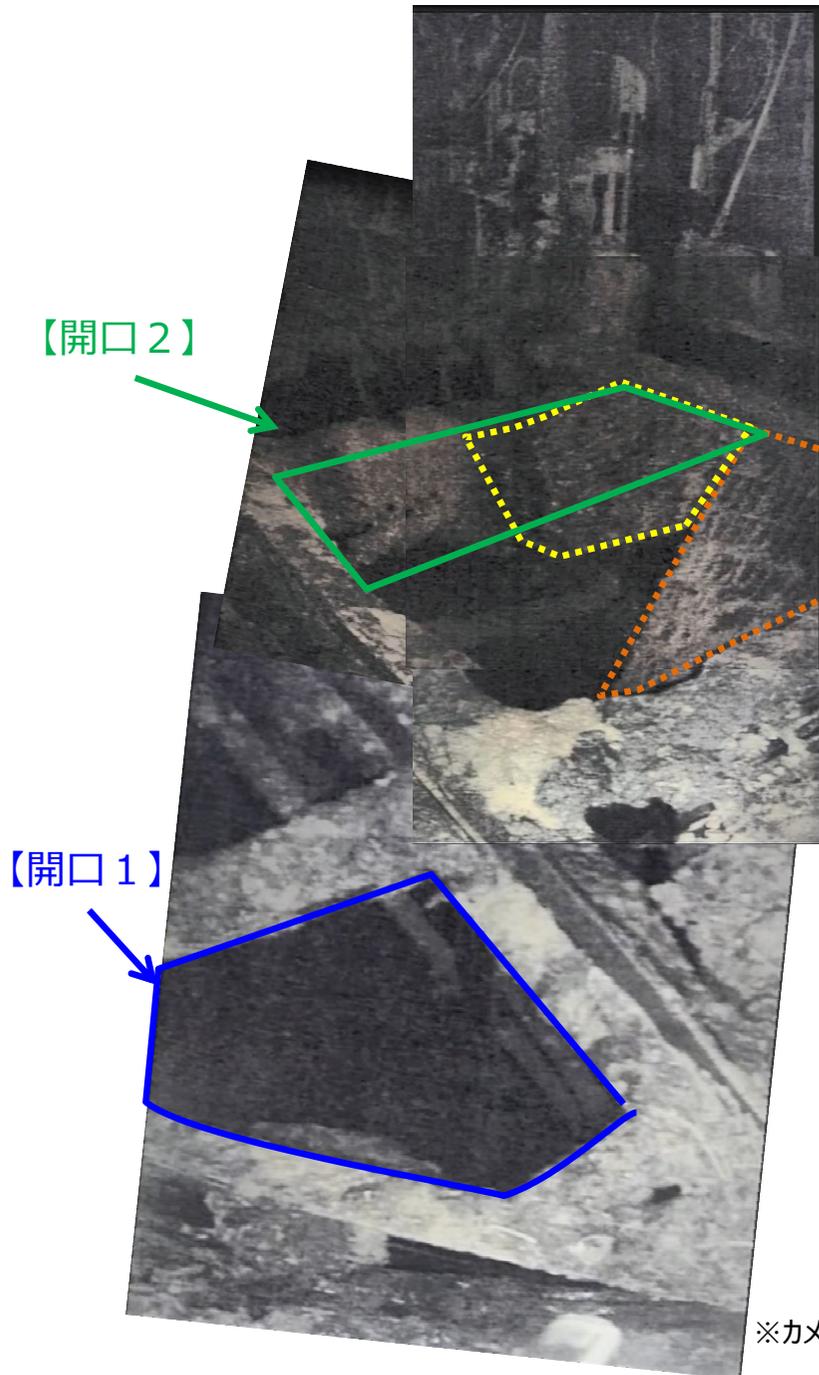


遠隔操作室の状況

福島第一原子力発電所構内：2号機燃料デブリの把持作業
(撮影日：2025年4月17日)

2-2. テレスコ式装置による取り出し作業の作業計画 (PCV内プラットホームの開口2の状況)

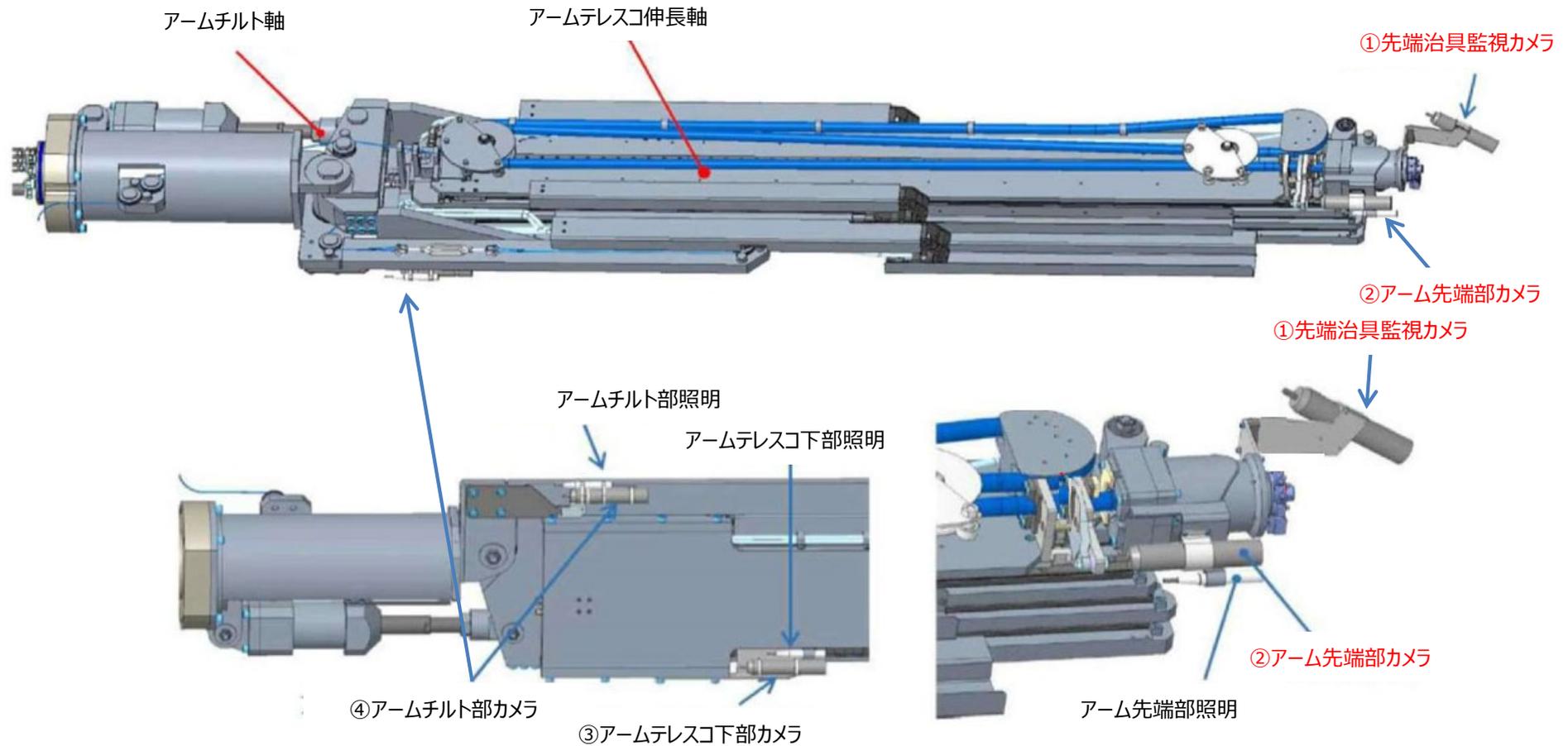
2025年2月27日
チーム会合資料一部抜粋



- 2024年9月作業時のテレスコ式装置のカメラ映像から遠目での開口2（左記緑枠）の状況を確認
- 開口2において、左記黄色点線部にグレーチングが残存していることを確認
- ただし、グレーチングの先端部の境界は非常に見えづらく、光が当たっても反射しない範囲にうっすらと線状のものを映像から確認
- 左記黄色点線部にグレーチングが残存していたとした場合、開口2の半分程度はグレーチングが干渉するものと推定
- 開口2の手前側には、左記橙色点線部にグレーチングが残存していることを確認

※カメラ映像の貼り合わせによる合成図

参考：テレスコ式装置のカメラ配置状況



テレスコ式装置のカメラ配置状況